

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	廃棄物処理施設周辺整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	○
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に基づき、構成市として組合に協力する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺整備実施計画に基づき、構成市として組合に協力する。 また、地元自治会との協定に基づき市道整備する柏市に対し負担金を支出する。
②①に基づく取組み結果	廃棄物処理施設周辺整備実施計画に係る協議を構成市及び組合と行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が実施する廃棄物処理施設周辺整備事業に係る負担金を支払う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設が立地する地域の環境向上に向けた取り組みである周辺整備事業は、これまで進捗が遅れてきた経緯があるため、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合の新たな廃棄物処理施設周辺整備基本計画については、着実に実行していくことが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が行う廃棄物処理施設周辺整備事業に対する負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	しらさぎごみ搬入量	30,779	30,417	30,292	t	業務取得
	ii	し尿浄化槽汚泥搬入量	19,333	18,941	18,694	t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	9,241	3,792	金額(千円)	内容	33,822		
国支出金(千円)			3,792	周辺整備事業費			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)					25,200		
一般財源(千円)	9,241	3,792			8,622		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	事業の進捗にあたっては、実施計画に基づく着実な進捗が求められているため年度間の調整が必要となる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	補助制度の活用など、効率的な実施を検討していく必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
		計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	負担金	3,792	3,792	当初	3,792	H29からの繰越
				H29⇒30繰越		
③達成状況	完了			補正		現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当		
令和元年度への繰越額(単位:千円)						0

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生活排水対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	環境課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	市村 昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	水質浄化の啓発活動に係るイベントを開催し、さらなる水質改善を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	水質浄化の啓発活動に係るイベントを開催し、さらなる水質改善を図る。
②①に基づく取り組み結果	生活排水浄化対策の取り組み、啓発活動を実施した結果、手賀沼、印旛沼の水質は、ほぼ横ばいで推移している。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内主要河川(6河川):大津川、金山落、井草水路、中沢川、二和川、大柏川	意図(対象をどうするのか)	河川水質の監視
②事務事業の概要	水質保全のための基礎調査として水質調査や浄化対策を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	本市は手賀沼、印旛沼、真間川流域の最上流部にあたり、水質汚濁の防止に取り組む必要があるため、鎌ヶ谷市生活排水推進計画に基づき、施設整備及び水質汚濁の防止を啓発するとともに、公共用水域の水質監視体制に取り組んでいくもの。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市内公共用水域水質検査結果(別添)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 大津川BOD値	5.8	7.0	7.5	mg/l	
	ii 井草水路BOD値	10.9	10.9	10.1	mg/l	
	iii 真間川水域BOD値	10	8.6	7.8	mg/l	
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	2,410	2,499	金額(千円)	内容	2,481	
国支出金(千円)			1,353	水質調査手数料		
県支出金(千円)			572	家庭雑排水共同処理施設保守点検委託		
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	2,410	2,499			2481	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	更なる水質改善を図っていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	手賀沼・印旛沼・真間川流域の最上流部に位置しているため、水質調査の継続実施・監視に取り組む必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			



令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	大気汚染・騒音・振動防止対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	3	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	環境課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	市村 昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	大気汚染、騒音、振動被害を軽減するため、指導及び監視活動を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	大気汚染、騒音、振動被害を軽減するため、指導及び監視活動を行う。
②①に基づく取り組み結果	ホームページへの掲載及び窓口対応等で周知を行い、市民生活の安全・安心を図り、生活環境保全についての理解を得る。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	各世帯	意図(対象をどうするのか)	市民が静穏で快適な生活を送れるようにする。
②事務事業の概要	国が示す環境基準に達しているか、毎年下総航空基地や自動車騒音常時監視業務測定等を実施し、大気・騒音・振動等に係る評価・指導・改善要求を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	関係法令により事業が定められており、環境基準や規制基準が制定当時に比べると、各種公害を取り巻く環境や住民意識も変化している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	環境の概況(別添・抜粋・速報値)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	相談件数	107	109	109	件	
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	2,414	2,090	金額(千円)	内容	2,483		
国支出金(千円)			1,372	航空機騒音実態調査業務委託			
県支出金(千円)			583	自動車騒音・面的評価業務委託			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,414	2,090			2483		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	測定結果の活用方法について検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	法令等により、市に義務付けられている監視業務であるため、下総航空基地や主要幹線道路による公害状況を今後も長期にわたって測定結果を注視していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29→30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

# 大気汚染・騒音・振動防止対策の 推進に要する経費

環境課	4款1項3目
-----	--------

## 〔事業の概要〕

住民からの公害等への苦情相談や処理等を行うとともに、生活環境の監視等を実施する。

## ○苦情種類別一覧

受理件数	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	その他
109	34	0	0	9	3	0	1	62

## ○用途地域別一覧

受理件数	市街化区域	市街化調整区域
109	67	42

### (2) 大気保全対策

市内における大気環境について、県内に設置されている大気観測局により監視。測定データを市ホームページで公開した。

### (3) 光化学スモッグ及び酸性の雨並びに微小粒子状物質 (PM2.5) による急性の健康障害暫定対策事業

光化学スモッグ及び酸性の雨並びに微小粒子状物質 (PM2.5) による急性の健康障害について、必要な連絡体制を組織し、発生予防や被害者対策を行った。

発令内容等	県全体	葛南地域
光化学スモッグ予報	0回	0回
光化学スモッグ注意報	15回	4回
光化学スモッグ等の健康被害	0人	0人
PM2.5高濃度注意喚起情報	0回	0回

### (4) 航空機騒音対策

下総飛行場周辺における航空機騒音の本市による騒音影響の実態を把握するため、航空機騒音の状況の調査を行った。

### (5) 自動車騒音・面的評価

騒音規制法第18条第1項の規定に基づき、市内の主要幹線道路を対象とし、環境基準の達成状況の把握のため、自動車騒音状況の常時監視を行った。